

平成21年度 第2回

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修実施要項

群馬県大学図書館協議会
群馬県図書館協会

日時：平成22年3月10日(水) 14:00～17:00

会場：放送大学群馬学習センター 2階 第3講義室
〒371-0032 前橋市若宮町1-13-2 Tel. 027-230-1085

テーマ：「図書館業務のアウトソーシングについて」

日 程 等	
受付：	13:30～14:00
1. 挨拶：	14:00～14:10
主催者	群馬大学総合情報メディアセンター長 遠藤 啓吾 (群馬県大学図書館協議会会長)
会場館	放送大学群馬学習センター事務長 岡田 勉
2. 研 修：	【14:10～17:00】
(1) 講演	14:10～16:10 「図書館業務のアウトソーシング」 (株)紀伊國屋書店ライブラリーサービス営業本部 取締役・本部長 藤則 幸男 氏 (120分)
	【概要】1. 図書館委託増大の背景と現状 2. アウトソーシングの定義と目的 3. 事例紹介(部分委託から全面委託へ) 4. 委託業者としての運営方法 5. 図書館員の専門性と委託の課題
(2) 休憩	16:10～16:20 (10分)
(3) 自由討議	16:20～17:00 (40分) 講師を交えた意見交換
3. 閉 会：	17:00

講師：藤則幸男（フジノリ,ユキオ）

株式会社紀伊國屋書店ライブラリーサービス営業本部 取締役・本部長

業務経歴

入社 30 年、営業、人事部を経て、24 年間に亙り、目録業務から図書館業務全般の委託を担当する。1986 年 OCLC の代理店となり、各図書館の洋書目録電算化を促進。1988 年より早稲田大学と和書データ作成共同作成事業を立ち上げ、各図書館の和書目録電算化を促進。目録作成受託を中心に展開した後、2001 年立命館大学からレファレンスの業務委託を皮切りに閲覧、収書、雑誌、ILL、図書館システム運営など図書館業務を広く受託。関西では 2001 年から京都精華大学、関東では 2004 年から江戸川大学で全面委託を受託開始している。現在、所轄する図書館業務は私立大学を中心に 80 館、スタッフ数は 1,000 名を超えている。

講演等

- 1990 年 10 月 早稲田大学図書館報（ふみくら No.25 / 1990 年）
「統一書誌データベースの構築を目指して」
<http://www.wul.waseda.ac.jp/PUBS/fumi/25/25-11.html>
（ふみくら No.19 / 1989 年）「現場からの報告」
<http://www.wul.waseda.ac.jp/PUBS/fumi/19/19-15.html>
- 2002 年 8 月 私立大学図書館協会西地区部会九州地区研究会
「アウトソーシング - 事例報告 - 」
<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/kyogikai/no45-p39.htm>
- 2003 年 9 月 日本薬学図書館協議会
「受託企業からみた図書館アウトソーシング」
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpla/20030926.html>
- 2004 年 12 月 兵庫県大学図書館協議会研究会
「大学図書館の委託事例報告 - 全面委託が始まった - 」
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/AULH/katsudo/16/kenshu/>
- 2005 年 9 月 日本図書館協会大学図書館部会・第 20 回大学図書館研究集会
「アウトソーシング受託と専門性の育成」
<http://www.jla.or.jp/daigaku/index.html>
- 2006 年 7 月 平成 18 年度大学図書館職員長期研修
「企画書作成」
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2006/youkou/3-2.pdf>
- 2007 年 8 月 日本医学図書館協会・第 14 回医学図書館研究会・継続教育コース
<http://www.soc.nii.ac.jp/jmla/event/kako/res-back/14th/14res.html>
「図書館業務委託の事例報告と課題」
- 2007 年 10 月 神奈川県資料室研究会・例会
「図書館アウトソーシングの現状と課題」
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/ssk/reikai/annai0539.htm>

連絡先

〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3 丁目 7 番 10 号
株式会社紀伊國屋書店 ライブラリーサービス営業本部
Tel:03-6910-0515 Fax:03-6420-1356 mail: fujinori@kinokuniya.co.jp

図書館業務のアウトソーシングについて

株式会社紀伊國屋書店・ライブラリーサービス営業本部
藤則 幸男 (fujinori@kinokuniya.co.jp)

1. 図書館委託増大の背景と現状

4 年生私立大学の 4 割以上が赤字経営になっているという。経営的な見地から従来のように専任職員を定数配置して図書館を運営することはもはや難しくなっている。私立大学では以前から図書館運営の民間委託を行ってきており、全面委託の事例も出ている。公共図書館では指定管理者の導入で大学以上に民間活力を活かした運営が一般的になりつつある。今や図書館運営において委託は経営上の戦略手段となっており、その現状把握を行う。

2. アウトソーシングの定義と目的

派遣と委託の違いなどアウトソーシングとは何かを整理する。委託する業者の種類と特長、現在の業者選定方法について現状報告する。委託する上においてはどの業務を対象にすべきか明確にし、委託仕様書をまとめていく必要があるが、現在の仕様書は委託する業務対象、業務件数、閲覧であれば対応人数、時間帯など「量」を主に明示しているものが多く、委託業務のレベル「質」を明確に委託業者との間で取り交わす例はまだ少ない。委託のメリットと課題を整理しながら、適切な委託のあり方について考えていく。

3. 事例紹介（部分委託から全面委託）

大学図書館の委託は、図書の整理や製本などを中心に以前から行われてきたが、委託範囲は徐々に広がり、収書、閲覧、雑誌、レファレンスなどに及び、更には専任職員の配置を必要最低限に抑えて、予算管理まで含めていわゆる「全面委託」を志向する大学も出ている。公共図書館では指定管理者や PFI で全面的な民間委託が大学以上に普及している。段階的な委託化や全面委託を行う場合の課題などについて考えていく。

4. 委託業者としての運営方法

委託業者としては、単に決められた業務を行うだけではなく、改善・提案型の積極的な取り組みを行う業務遂行上のパートナーとして役割が期待されている。委託開始までの準備と委託開始後の業務の進め方、業者としてのノウハウを紹介する。委託期間は 1 年契約が主流であり、成果が出なければ契約継続も難しくなる。図書館は委託を担当するスタッフにとって司書資格を持っていても安定的な職種とは言えなくなっている。多くのスタッフを抱える委託業者として取り組むべき課題は尽きない。その現状を報告する。

5. 図書館員の専門性と委託の課題

図書館は大学の心臓と言われており、高度な学術情報を扱い、電子化が急激に進む時代にあって図書館員に求められているスキルも非常に高くなっている。委託化が進めば、本来職員に求められるスキルは委託スタッフに求められることになっていく。学習支援・教育支援を支える委託側としてどう専門性を維持向上させていくのか、委託する側と受託する側双方が考えていかねばならない大きな課題である。図書館員制度の日米の格差も参考にしながら、これからの図書館を誰が主役で運営していくのか、図書館はどこに向かっていくのか問題提議し考えていく。

平成 21 年度第 2 回大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

[平成 22 年 3 月 10 日 14:00 ~ 17:15 放送大学群馬学習センター]



放送大学群馬学習センター全景



研究会(研修) 開会前の会場



講演風景(1)



講演風景(2)